

ベイ★キッズ

横浜子育て応援マガジン

ベイ★キッズ

FREE
2024 WINTER
vol. 051

おもちゃのめぐり

02 | 厳選! すてきなおもちゃ
ママの健康応援プロジェクト

03 |
まちすき
おもちゃコンサルタント
萩原知子さん
身近でできるSDGs
森のつみ木広場
冬のお届け便
ノースポール
パパと遊ぼう
よこはまこどもカレッジの
名物せんせい

04 |
こどもと一緒に楽しもう
ボードゲーム

Credit

スタッフ: 東恵子 船本由佳 本田真弓
ベイ★キッズ みなとくらす
デザイン: 川本智子
協力: あそびい横浜 横浜市こども植物園
シュプレ協会



写真: 菅原康太

● 編集・発行/ベイ★キッズ編集部[NPO法人シャーロックホームズ] 〒220-0002 横浜市西区南青井18-1-110 TEL.045-324-5033 FAX. 045-548-4514
http://baykids.jp info2@baykids.jp * 情報提供や広告掲載に関するお問い合わせは上記まで。 * 紙面の無断転載を禁じます。

おもちゃは人と人をつなげるツール

初めて会った人と遊びの中で仲良くなり、言葉も障害も年齢も越えて、多くの人とつながることができる力がおもちゃにはあります。タオルなどの日用品や落ち葉などの自然のものも創意工夫でおもちゃになりますよね。最近はスマホのアプリや電気で動くおもちゃも多く、おもちゃ側が勝手に動いてくれて子どもは夢中になってしまいますね。

一方で、見て、心が動いて、楽しさを獲得していくのがアナログなおもちゃのいいところ。すぐに遊び方が分からなくても、小さい子は振って見せたりアクションすることで学び、楽しさが分かって心が動く。コミュニケーションが生まれて心が動き、赤ちゃんも手を動かしたり目を動かしたり、自発的にアクションしたくなります。

一人遊びだけでは分からないことも、となりの子と一緒におもちゃで遊ぶことで知ることができたり、おもちゃを通して子どもの成長がわかったりすることもあります。

おもちゃの取り合いも、子どもにとっては当たり前の成長の過程。「ルールを知る」というのも大事です。負けるのが嫌というお子さんもいるけど、遊びの中で「失敗してもまたチャレンジする」という経験をしていくことで、遊びを通して社会のことが分かっていくのです。

このおもちゃで遊べば賢くなるとか、そういう視点でおもちゃを選ぶのではなく、子どもの反応を見てみましょう、子どもにおもちゃを選び取る力があはることに気がつくと思います。

「おもちゃは人間が初めて出会うアート」という東京おもちゃ美術館多田千尋館長の言葉通り、形や色が美しく、匠の技で作られていたり、単純な仕掛けなのに面白い動きがあるものなど、触って楽しいものがたくさんあります。その中で美しさに気がついて欲しいし、おもちゃは子供だけのものではなく、一生大事にできるおもちゃにも会えると思います。



【お話を聞いた方】君ひとみさん
保育士
東京おもちゃ美術館のおもちゃコンサルタントマスター
川崎市高津区在住 男1人女1人の母

君さんが感銘を受けたおもちゃ

どんぐりころころ

木でできたどんぐりの形のおもちゃ。日本のメーカーが作っているおもちゃです。裏に大きなビー玉が入っているシンプルな仕掛けながら、ゆったりした動きとデザインがとてもかわいくて、大人も子どもも楽しめるおもちゃ。おもちゃは子どもだけのものじゃないと感じさせてくれる。「どんぐりサンタ」や「デカどんぐり」などバリエーションも豊かで、子どもの想像力を掻き立てるおもちゃです。



おもちゃは子どもとのコミュニケーションツール
あなたと子どもと社会をつなぐ多彩なおもちゃの世界へ

おもちゃで人生を豊かに



おもちゃで子育てが広がる

長男が幼稚園に入る前、DVDに夢中になっているのが気になり、子育てのヒントになればと東京おもちゃ美術館(2面参照)を訪ねました。美術館にあるのは、ぱっと見はどう遊ぶのかわからないおもちゃばかりでしたが、子どもは最後は帰りたくない泣くほど夢中になりました。「おもちゃ」の魅力に気づき、おもちゃコンサルタントという資格があることを知りました。

当時の私は、自分が子育てに悩んだことを原点に子育て支援をしたいという思いで、保育士資格をとってみたい、子育てサークルの活動をしたりして模索していました。下の娘が7学年離れて生まれたタイミングで保育園勤務をやめて時間ができたため、いい勉強になると思って託児を利用しながらおもちゃコンサルタント養成講座に通うことにしました。そこでおもちゃを通して、世界と日本、障がい、高齢者アクティビティなど、視野を広げる講座を受けることができました。また、コンサルタントとしておもしろい活躍をしている先輩たちとも出会え、私なりにおもちゃと子育て支援の活動をつなげられないかと考えるようになりました。

社会とつながる接点に

私は子育て支援施設に行くことに苦手意識がありました。困りごとを相談しなきゃいけない、良いママになる努力を見せなくちゃいけないというプレッシャーをなぜか感じてしまって、私はありのままに過ごせなかった。「おもちゃの広場」なら、遊びを通して居場所をつくることができ、話すことを目的とせず集まることができると思いました。

おもちゃは里山や山地の木でつくられたものも多く、職人の技術継承や森林率の高い日本について考える機会にもなります。良さを見直すことで環境や気象などを考える「木育」にもつながります。

親子の理解を深め、子の成長が分かり、社会性を身につけたり、環境や世界のこともつながる可能性があるおもちゃの良さを、もっともっと知ってもらいたいと思っています。いつでもおもちゃで遊べる常設の施設を神奈川県にもつくれたらいいですね。

ひっつきむし

穴のなかにいるいもむしを磁石で釣り上げるおもちゃ。釣ったり集めたりして楽しめます。ごっこ遊びにもつながり、遊びが広がります。埼玉在住の作家が一人で作っているおもちゃなのですが、おもちゃコンサルタントが投票して選ぶ「グッド・トイ」に、先輩コンサルタントが推薦したことがきっかけでたくさんの人に知られるようになりました。東京おもちゃ美術館には、大型のひっつきむしの森コーナーがあります。

